

令和3年度 学校教育目標

「自分のことばで夢を語り、
いのち輝く朱一の子
～言語活用能力の育成～」

目標設定の理由

いかに社会が変化しようと、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力、自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性、たくましく生きるための健康や体力などの「生きる力」を育成することが大切となる。

すべての児童の「生きる力」育成に向けて、学校教育目標を「自分のことばで夢を語り、いのち輝く朱一の子～言語活用能力の育成～」と設定し、育成を目指す資質・能力を、「言語能力」、「人間関係形成力」「課題解決力」とし、下記の子ども像を目指すことを通して、資質・能力の育成を図っていきたい。

（目指す子ども像）

- ・自分の思いや考えを適切に伝え合う子
- ・ちがいを認め、助け合える子
- ・あきらめないでねばり強く学ぶ子

知識・技能を習得するのも、これらを活用し課題を解決するために思考し、判断し、表現するのもすべて言語によって行われるものであり、これらの学習活動の基盤となるのは、言語活用能力である。さらに、言語は論理的思考だけではなく、コミュニケーションや感性・情緒の基盤でもあり、豊かな心をはぐくむ上でも、言語活用能力を高めることは大切となる。

学校教育目標の実現のため、言語活用能力の育成を重視し、カリキュラム・マネジメントの実現を通して、各教科等における指導だけでなく、学校生活全体において、児童が日常生活における言語の役割や機能などについて意識や関心をもって正しい国語を用いるよう指導することが必要であり、また教師自身が、より一層言語に対する意識と関心をもって指導に当たる。教職員自身は、下記の教職員像を目指しながら、社会の変化を捉え、生涯を通じて探究心を持ちつつ、自律的かつ継続的に学び続け、より人間性や創造性、専門性を高めていくようとする。

（目指す教職員像）

- ・子どもの命を守りきる。
- ・多様な子どもを誰一人取り残さない。
- ・職責を自覚し、研鑽することで教育の質を高める。

これらの取組を通して、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、保護者・地域と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む「社会に開かれた教育課程」を実現するため、下記の学校像を目指す。

〈目指す学校像〉

- ・子どもたちが夢や希望をもち、輝いている。
- ・教職員が誇りと充実感をもてる。
- ・保護者や地域が信頼し、子どもの成長を喜び合える。

学校教育の計画

学校教育目標の達成に向けて、全国学力学習状況調査やジョイント・プログラム、クラマネシート、体力テスト等の各種データに基づき、一人一人の実態と把握し、到達目標を設定することで、R-PDCAのサイクルを展開する。そのため、「知」「徳」「体」の3つのプロジェクトチームを発足し、それぞれからのチームからの提案を基に、調和のとれた取組を進める。

（1）「確かな学力」の育成に向けて

〈重点目標〉

- ・自分のことばで豊かに表現し、学びあう子

〈具体的な取組〉

- ・基礎的・基本的な知識・技能の定着と言語活動の充実
- ・主体的・対話的で深い学びの実現
- ・GIGAスクール構想に基づく情報活用能力の育成
- ・日々の授業と家庭学習との連動を通じた、自学自習の習慣化
- ・LD等支援の必要な子どもの学力向上
- ・実践的英語力の育成

（2）「豊かな心」の育成に向けて

〈重点目標〉

- ・自分や他者を肯定的にとらえ、自分自身や未来を主体的に切り拓いていく力を身につける。

〈具体的な取組〉

- ・自己肯定感、自己有用感等の自尊感情の涵養
- ・道徳教育の充実
- ・豊かな感性や情操を育む教育
- ・規範意識の育成（情報モラル）
- ・多様性の理解
- ・つながり合い、高めあう集団づくり
- ・人権尊重の精神と態度の育成

(3) 「健やかな体」の育成に向けて

〈重点目標〉

- ・自分の体・命に关心をもち、その状態を理解して、適切な向き合い方ができる力を身につける。

〈具体的な取組〉

- ・体力の向上
- ・保健教育の充実
- ・基本的な生活習慣の定着
- ・安全教育の充実
- ・食に関する指導の推進（食物アレルギー対応）
- ・薬物乱用防止

小中一貫教育（よんきゅうう絆プロジェクト）

〈目標〉 未来を拓き、しなやかに生きる子どもの育成

〈身に付けてほしい資質・能力〉 課題解決力・コミュニケーション力

〈目指す子ども像〉

- ・自ら進んで学習する子
- ・自ら考え表現できる子
- ・他者との関わりを大切にし、正しく判断・行動する子

